

◎里山の休日に考えること 「薪(まき)」



大和高原の小さな村に住む私の生活の一端を紹介しましょう。上の写真は、ご覧の通り「薪(まき)」です。

今でも風呂は「柴(しば)」と「薪(まき)」で沸かしています。太陽の光を受け、二酸化炭素を吸って酸素を一杯いっぱい作っている森林の「光合成」をさらに活発にさせるために、「枝打ち」「間伐(かんばつ)」を行ったのです。

森林の木材たちに、

「よく二酸化炭素を吸い込んでくれました。ありがとう。」と感謝の意味をこめてここに並べ、燃料として使っています。

約30年分の「薪(まき)」が、家の周囲に積み上げられています。森林の手入れを日々行っているのです、いくら使っても減ることはありません。

便利な生活を求めてガスや電気を使えば、いきおい外国から輸入する石油や天然ガス、あるいは原子力にたよる生活になってしまいます。

日本の国土の70%は森林です。今、日本の森林は手入れをする人がなくなって、「間伐」した木材がほったらかし。山の中で朽ち果てています。台風などによる豪雨では、川に流れ出して橋脚などに引っかかり、水害の拡大要因にもなっています。

「頑張って二酸化炭素を吸い込んできた」木材を国産の燃料として見直してはどうでしょうか。

「薪ストーブ」「木材ペレットストーブ」として。「木材チップ」を使用した暖房を市役所・学校・福祉施設などの公共施設で使用する例もふえています。

◎日本のエネルギー政策はこれでよいのか？

東日本大震災による福島原発事故をきっかけに、企業は石炭火力に方向を見いだし、オーストラリアの褐炭(最も質の悪い安価な石炭)を今後100年間にわたって使用しようとしている日本のエネルギー政策は、2030年に至っても石炭依存であり続けるのです。

日本が国際社会から

「石炭火力発電を続けている。石炭を燃やし二酸化炭素を排出し続けている。」

と批判を受けるのは当然のことです。

日本の福島原発事故を教訓に、「原発全廃」に踏み切ったドイツ。自然エネルギーの増減を各地の変電所で調節

しています。

「自然エネルギーの新たな買い取りはもうしない。」
と関西電力は原発再稼働で稼ごうとしています。テレビコマーシャルの文句と何とかかけ離れていることか。事実、京都府南山城に出来たメガソーラーの電気は関西電力が買い取りを拒否したために、三重県にある中部電力の変電所に送られようとしています。国道163号線は、メガソーラーの電気を通すための掘削工事が行われています。

◎我が家の新顔



薪の上でお昼寝をしているのは、我が家の新顔です。我が家には年取ったネコがいるので、何事も先輩を見て覚えてくれます。2～3日で広い自然の中でのトイレ。雨の日は濡れないで防空壕(トンネル)を使うことも……。なかなか快適そうなお様子であります。